

千葉県我孫子市高野山新田の手賀沼遊歩道沿いに 植栽されたサクラの品種

今村知子

キーワード：サクラ、手賀沼遊歩道、我孫子市、千葉県

はじめに

サクラは、バラ科Rosaceae サクラ属Cerasus に属する落葉性の樹木の総称で、日本には約10種の野生種があり、これら野生種をもとに数多くの品種が作出されている(林 1975, 川崎ら 1993, 勝木 2001, (財)林業科学技術振興所編 2004, 大場ら 2007)。室町時代にはすでにいくつかの品種が存在したとみられ、現在では300以上の品種が知られている(林 1975, 山田 1990, 川崎ら 1993, (財)林業科学技術振興所編 2004, 大場ら 2007)。なお、サクラの分類に関しては分類大系上の扱いが研究者によって異なり、スモモ属 Purunus に含めることもある(林 1975, 川崎ら 1993, 大場ら 2007)。

サクラは、古事記や日本書紀に始まり現代まで歴史・文学にさまざまな形でとりあげられてきたと同時に、古くから季節変化を知る物差しとして、あるいはその材を暮らしに利用されるなど、日本文化と深いかわりを持ち続けている(中尾 1986, 山田 1990, 東京農業大学短期大学部生活科学研究所 2000, 小川 2004)。また、サクラの栽培品種‘染井吉野’は、今やなくてはならない日本の春の風物詩といえる。

手賀沼を一周する遊歩道の北岸には‘染井吉野’をはじめ多くの品種が植栽しており、二季咲きや八重咲きなどいろいろなサクラを楽しむことができる。

ここでは、我孫子市鳥の博物館が月例探鳥会を行っている手賀沼遊歩道沿いのルート(通称てがたんコース)に植栽してあるサクラの品種について調べたので、報告する。

調査地および調査方法

調査地は、千葉県我孫子市高野山新田の手賀沼親水広場から滝下広場までの手賀沼遊歩道沿いのルートである(図1)。

調査年月日は、2004年4月16日、4月17日、2005年4月4日、4月10日、4月15日、2006年3月29

日、3月30日、4月10日、4月16日、4月18日、6月5日、2007年2月1日、2月22日、3月18日、3月21日、3月24日、3月26日、3月31日、4月1日、4月5日、4月7日、4月9日、4月13日、4月18日、4月20日、5月5日、5月14日、6月7日、9月17日、12月15日、2008年1月3日、2月15日、3月21日、3月28日、4月4日、4月10日、4月15日、4月18日、4月28日、5月8日、5月16日、5月19日、5月28日、5月29日、6月4日、6月5日、6月17日、6月29日、7月18日、7月30日、7月31日、8月7日、8月14日、9月16日、9月17日、10月4日、10月12日、11月14日、12月18日の計59日間である。2004～2006年は手賀沼親水広場から水生植物園までの間(図1A～B)、2007年は主に水生植物園に隣接する我孫子市ふれあい農園から滝下広場までの間(図1B～C)に植栽してあるサクラについて調査した。2008年は、調査ルート内に植栽してある各品種の花期および果実期について、補足調査を行った。

種および品種の同定は、花の咲く時期、新葉が展開する時期と新葉の色、花序の形、花の大きさや色、花弁の数、おしべやめしべの数と長さ、めしべの葉化の有無、萼筒の形、萼片の形と鋸歯の有無、花柄と小花柄の長さおよび毛の有無等を、花の最盛期に詳細に観察することにより行った。酷似している品種については、花を分解し、ルーペを用いてめしべ基部の毛の有無などを観察した。また、場合によっては成葉の形や果実の色、種子の形についても観察した。種および品種の同定は、川崎ら(1993)、勝木(2001)、森脇(2006)、大場ら(2007)によった。サクラは、1本1本種あるいは品種を同定し、1/2,500の地図にプロットした。サクラの花のつくりについて、図2に示す。

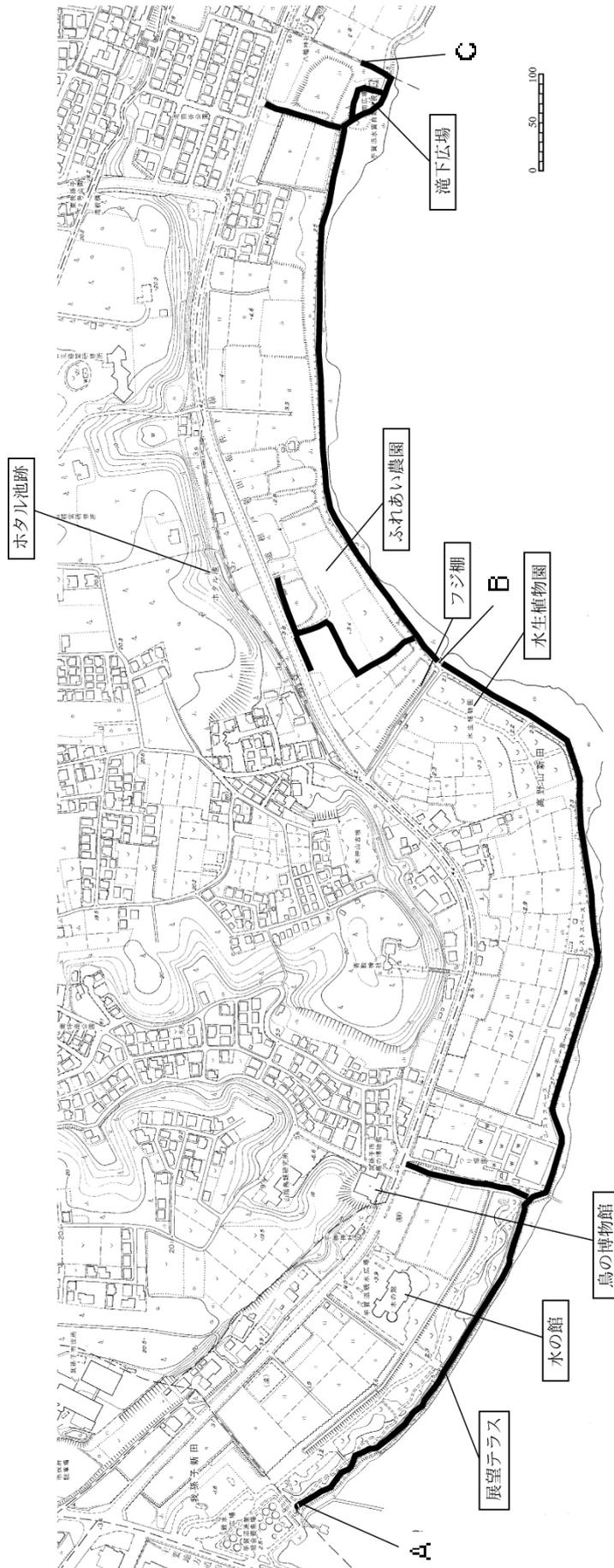


図1. 調査範囲

—— 調査レポート

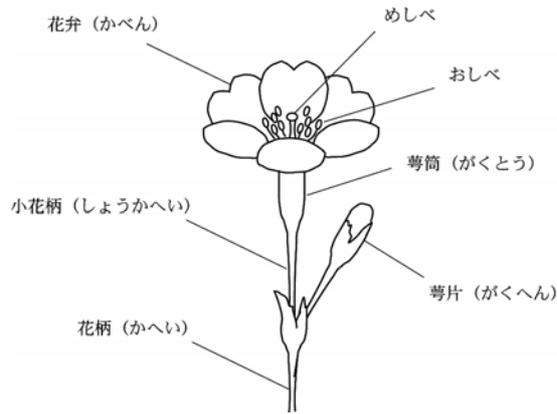


図2. サクラの花のつくり

結果および考察

調査した結果、手賀沼親水広場 - 水生植物園間のルートでは161本1種10品種(図3)、ふれあい農園 - 滝下広場間のルートでは77本2種8品種(図4)、手賀沼親水広場 - 滝下広場間の全ルートでは238本3種13品種が確認できた。本調査で種または品種の同定ができなかった樹は、手賀沼親水広場 - 水生植物園間のルートで161本中1本、ふれあい農園 - 滝下広場間のルートで77本中3本であった。学名、種名、栽培品種名はおもに大場ら(2007)にしたがった。また野生植物と栽培品種では分類の単位が異なることから、勝木(2001)にならい、種名はカタカナ書きで表記し、栽培品種名は漢字表記したものをシングル引用符(‘ ’)でくくり、それぞれを区別した。

以下に、調査結果を記す。

(1) 植栽されたサクラの種・品種の位置と本数

手賀沼親水広場 - 水生植物園間のルート

手賀沼親水広場 - 水生植物園間のルートで確認した種または品種およびその本数は、本数が多い順に、‘染井吉野’86本、‘一葉’18本、‘普賢像’17本、‘江戸’15本、‘松月’8本、‘菊桜’6本、‘関山’3本、オオシマザクラ4本、‘御車返し’1本、‘越の彼岸桜’1本、‘鷲の尾’1本、不明1本であった。また、釣り堀の下流側に位置するレストスペース前の‘江戸’1本には、台木に使われたオオシマザクラのひこばえが花を数輪つけているのが確認できた。親水広場と水生植物園の間あたりにあるレストスペース前にある不明の1本はオオシマザクラに酷似していたが、小花柄や萼筒に毛があり、品種を特定することができなかった。オオシマザクラの苗木を育成する場合、ふつう実生から育てられる(勝木2001)。ここでは、圃場で栽培されている他種

あるいは他品種と自然交配した苗木が、オオシマザクラとして植えられた可能性が考えられる。

手賀沼親水広場から水生植物園間のルートで確認されたサクラの検索図を、図5に示す。

ふれあい農園 - 滝下広場間のルート

ふれあい農園 - 滝下広場間のルートで確認した種または品種およびその本数は、本数が多い順に、‘関山’24本、‘染井吉野’20本、‘十月桜’9本、‘糸桜’5本、‘松月’5本、‘江戸’3本、‘八重紅彼岸’3本、ヤマザクラ2本、‘一葉’2本、エドヒガン1本、不明3本であった。不明の樹は、滝下広場内のトイレ脇に1本、手賀沼水質自動監視室横に2本あった。トイレ脇に植栽してある不明の1本は、樹が小さく花が咲かなかったため品種を同定することができなかったが、枝が枝垂れていることと成葉の形から、‘糸桜’あるいは‘八重紅枝垂れ’と推測された。また、滝下広場手賀沼水質自動監視室横に植えてある不明の2本はオオシマザクラに酷似していたが、小花柄や萼筒に毛があり、品種を特定することができなかった。これら2本は、ふれあい農園 - 滝下広場間のルートで観察された不明の1本より小花柄等の毛がまばらであった。これらは、ふれあい農園 - 滝下広場間のルートで観察された不明の1本と同様、圃場で栽培されている他種あるいは他品種と自然交配した苗木が植栽された可能性が考えられる。

水生植物園 - 滝下広場間のルートで確認されたサクラの検索図を、図6に示す。

(2) 手賀沼親水広場 - 滝下広場間の調査ルートで確認した種・エドヒガン (Cerasus spachiana Lavallee ex E. 認した種および栽培品種について

手賀沼親水広場 - 滝下広場間の調査ルートで確認した種および栽培品種についての詳細を、種および品種ごとに、あいうえお順に以下に記す。なお、それぞれの種および品種についての記述は、花の最盛期に関するものである。咲き始めや最盛期を過ぎた花は、花色や新葉の色が変化することがあり、同定は難しくなる。また、葉だけから種または品種を同定することは非常に困難であるので、ここでははぶいた。



図8. 手賀沼親水広場から水生植物園間のルートに植栽されたサクラ

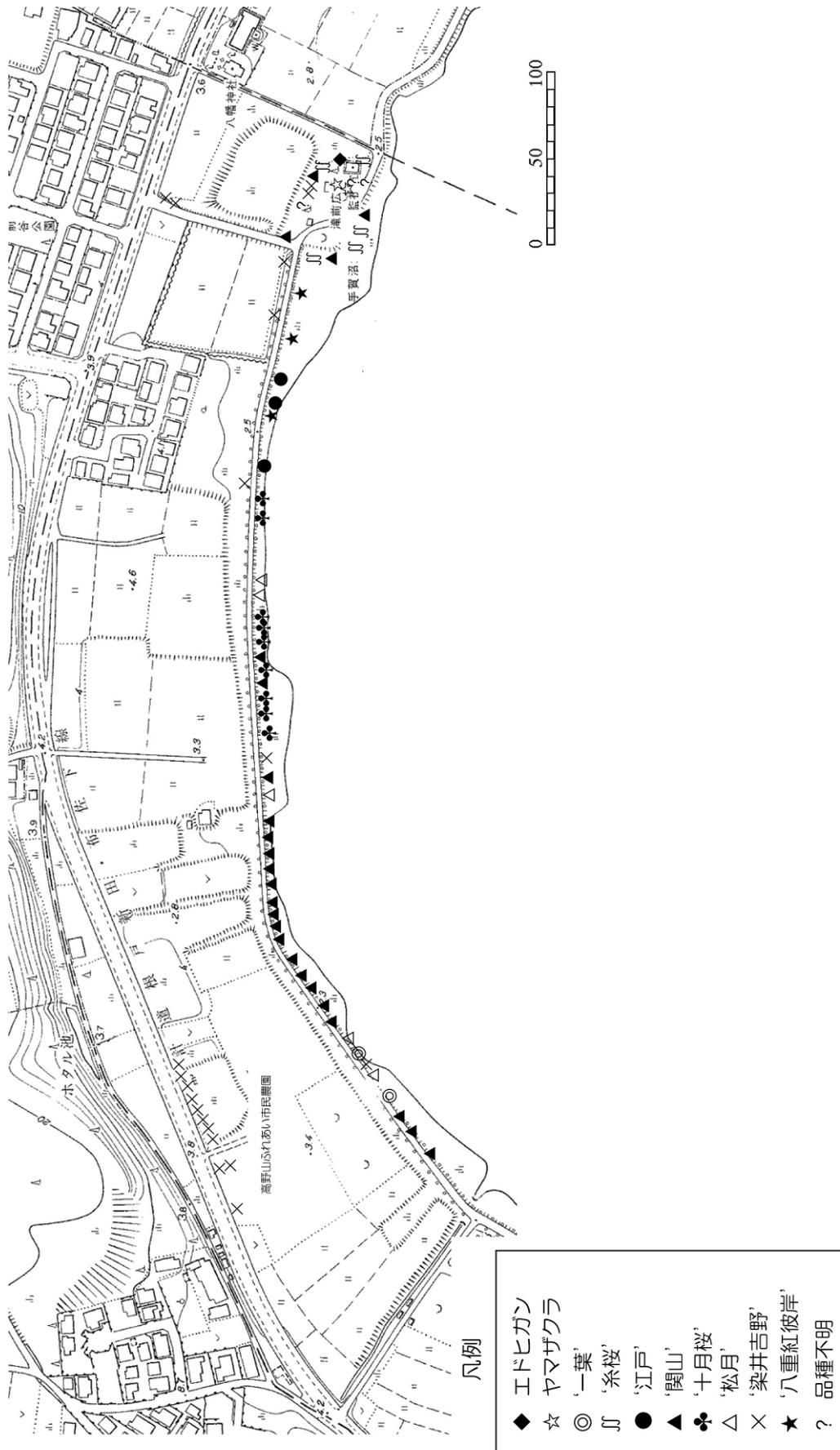


図4. 水生植物園から滝下広場間のルートに植栽されたサクラ

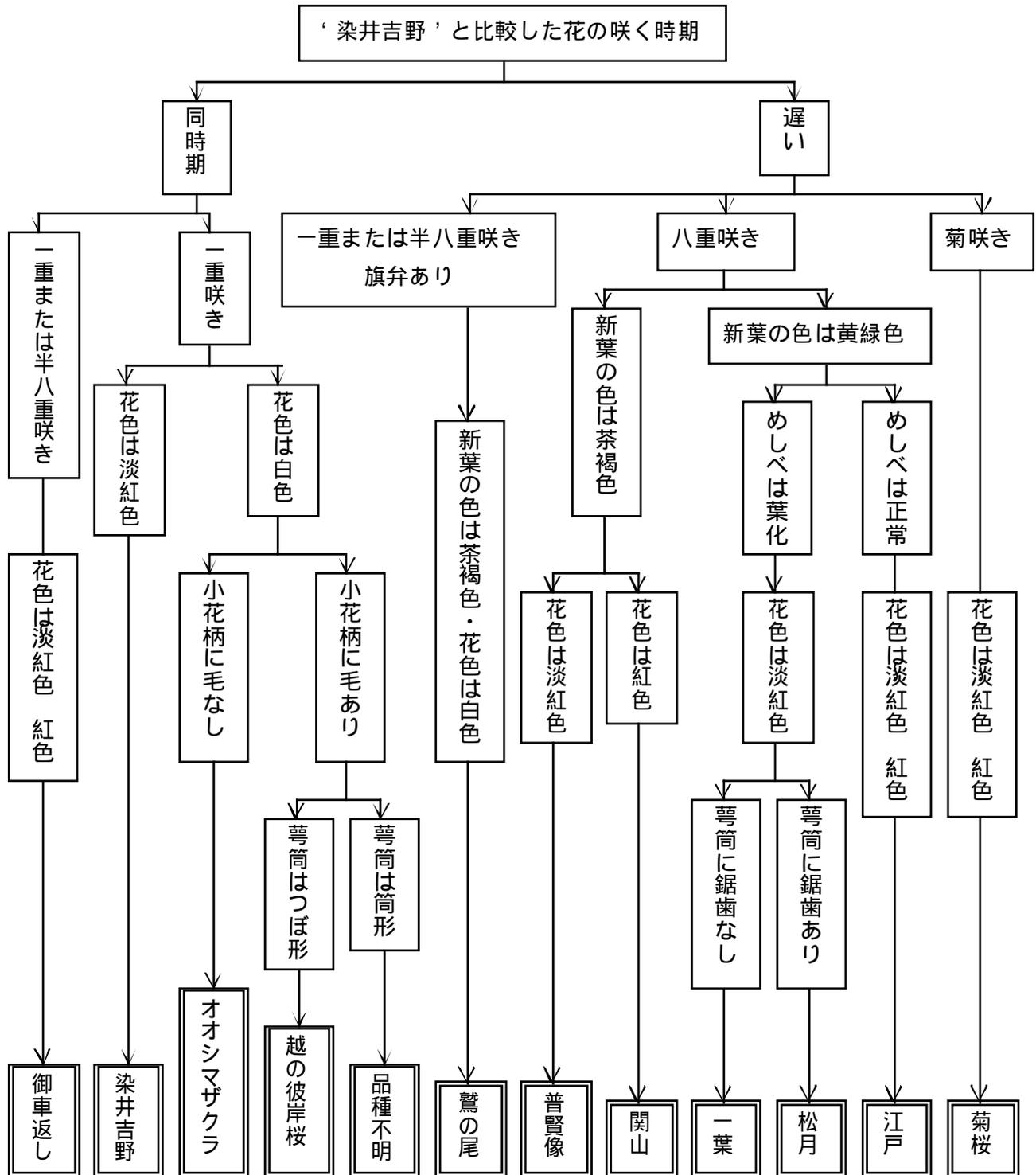


図5. 手賀沼親水広場から水生植物園間のルートで確認されたサクラの検索図

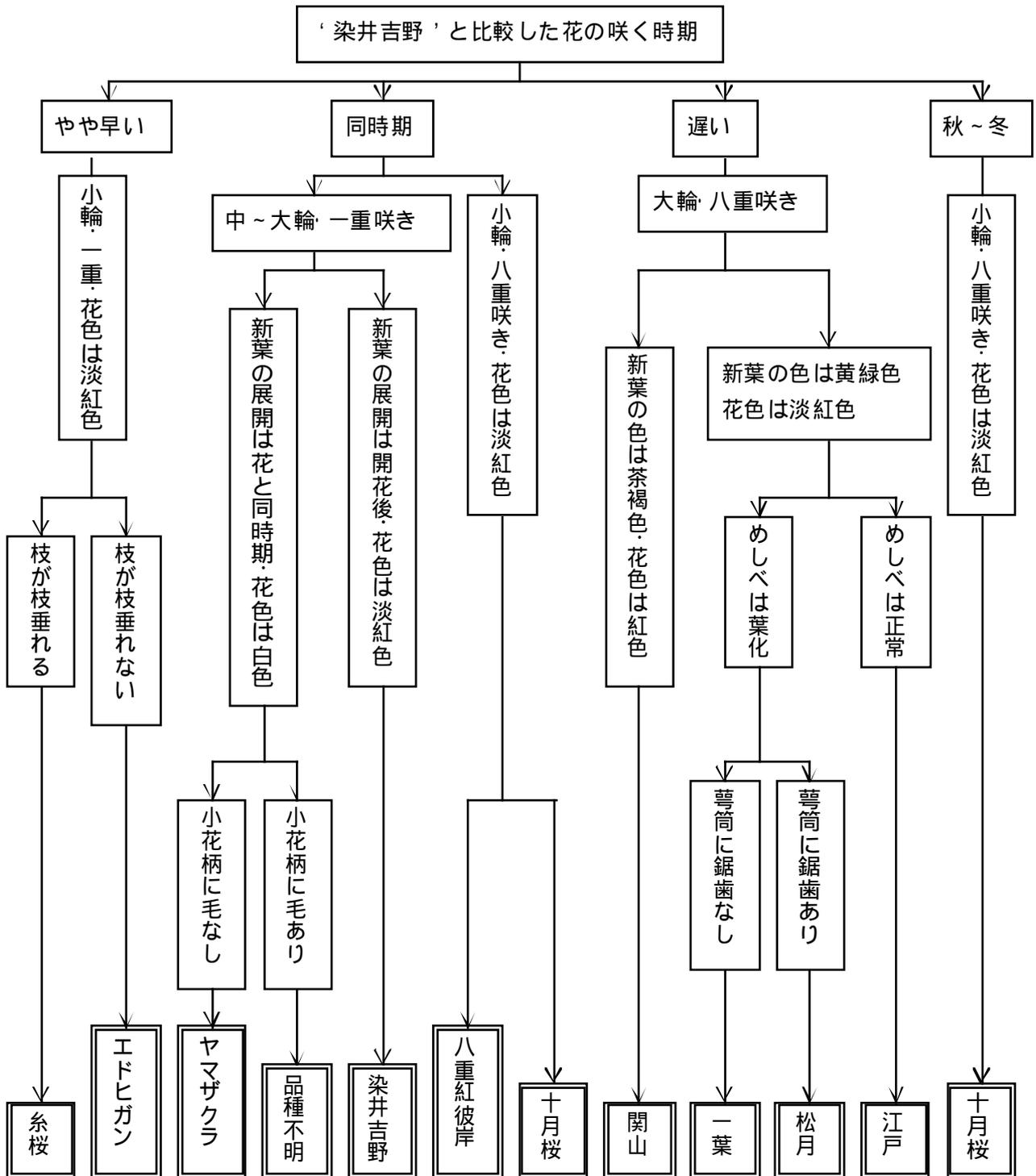


図6. ふれあい農園 - 滝下広場間のルートで確認されたサクラの検索図

・エドヒガン (*Cerasus spachiana* Lavallee ex E. Otto var. *spachiana* : 江戸彼岸) (図7)

本州・四国・九州および朝鮮半島に分布する種 (勝木 2001, 大場ら 2007)。「染井吉野」よりやや早い時期に開花する。新葉は開花後に展開する。花は小輪、一重咲き。花色は白色から紅色まで変異があるが、本調査地内の樹は「染井吉野」よりやや濃いめの淡紅色であった。萼筒は壺形で、小花柄とともに毛が多い。日本産のサクラのなかではもっとも寿命が長く (大場ら 2007)、山梨県北巨摩郡の「山高神代桜」や宇野千代の小説で有名になった岐阜県本巣郡の「根尾谷の薄墨桜」は樹齢1000年を越すといわれており、国の天然記念物に指定されている (川崎ら 1993, 東京農業大学短期大学部生活科学研究所 2000)。古くから寺社で栽培されている (勝木 2001)。



図7. エドヒガン

・オオシマザクラ (*Cerasus speciosa* (Koidz.) H. Ohba : 大島桜) (図8)

伊豆諸島の大島から青ヶ島、伊豆半島、三浦半島、房総半島南部に分布する種 (勝木 2001, 大場ら 2007)。「染井吉野」とほぼ同時期に開花し、花と同時に緑色の新葉が出る。大輪で、花色は白色、一重咲きで、花には芳香がある。萼筒は筒形で、萼片は長い鋸歯がある。全木無毛。果実ははじめ赤く、熟すと黒紫色になる。さまざまな品種のもととなった原種のひとつで、花色や花卉の数、新葉の色など変異も多い (川崎ら 1993, 大場ら 2007)。樹勢が強く鑑賞価値も高いことから各地の公園に植栽されているが (林 1975, 大場ら 2007) ふつう実生から苗木を得るため、植栽してある樹には変異が多く、多種や他品種との雑種と思われるものがある (勝木 2001)。また、桜餅を包むサクラの葉は本種を塩漬にしたもので、香りの成分はベンズアルデヒドが分解されたクマリンという物質である (東京農業大学短期大学部生活科学研究所編 2000)。



図8. オオシマザクラ

・ヤマザクラ (*Cerasus jamasakura* (Siebold ex Koidz.) H. Ohba var. *jamasakura* : 山桜) (図9)

東北南部から四国、九州に分布する種 (林 1975, 勝木 2001, 大場ら 2007)。「染井吉野」とほぼ同じ時期に開花し、花と同時に褐色の新葉が展開する。中輪で、花色は白色、一重咲き。萼筒は筒形で褐色、萼片には鋸歯がなく、無毛。古くから親しまれてきたサクラで、平安時代以降詩歌に詠まれた「花」はヤマザクラをさすと言われている (林 1975)。しかし、文学に現れる「山桜」は分布から見て高所に生える高木のサクラで、西日本ではヤマザクラ、東日本ではオオヤマザクラ、新潟県以北の日本海側ではカスミザクラをさしたという説もある (大場ら 2007)。



図9. ヤマザクラ

・「一葉」 (*Cerasus serrulata* 'Hisakura' : イチヨウ) (図10)

栽培品種。花の咲く時期は「染井吉野」より遅いが、八重咲きのサクラの中では比較的開花期が早く、本調査ルートでも他の八重咲き品種に先がけて

咲く。新葉は黄緑色で、花と同時に展開する。大輪で、八重咲き。花色は淡紅色で、中心部は白色に近い。長く突き出た1本の葉化しためしべをもつことからこの名前があるが、めしべは葉化しないこともある(勝木 2001)。萼筒はろうと形で、萼片に鋸歯



図 10. '一葉'

はない。

・'糸桜'(Cerasus spachiana 'Pendula': イトザクラ, 別名/'枝垂桜'シダレザクラ)(図 11)

エドヒガンの栽培品種で、細い枝が枝垂れること以外、開花時期、花や葉のつくりなどエドヒガンと同じ特徴をもつ(勝木 2001, 大場ら 2007)。「染井吉野」よりやや早い時期に開花し、新葉は開花後に展開する。花は小輪、一重咲き。花色には変異があるが、本調査地内のもは淡紅色であった。萼筒は壺形で、小花柄とともに毛が多い。「糸桜」は交配品種ではなく、変異性の大きなエドヒガンのうち、自生しているしだれ型のをそのまま観賞用にしたとされる(大場ら 2007)。枝がしだれるのは、枝全体の生長速度が速く、枝や葉の自重により枝が垂れ下がり、その後木質化してその状態が固定されるためである(大場ら 2007)。平安時代にはすでに歌に詠まれており(山田 1990)、古くから寺社を中心に全国各地に栽培されている(勝木 2001)。福島県三春町の「三春滝桜」は日本最大の「枝垂桜」として



図 11. '糸桜'

有名で、樹齢600~700年と推定されており、国の天然記念物に指定されている(川崎ら 1993, 勝木 2001)。

・'江戸'(Cerasus serrulata 'Nobilis': えど)(図 12)

栽培品種。花の咲く時期は「染井吉野」より遅い。新葉は黄緑色で、花よりやや遅れて展開する。大輪で、花色は紅色。八重咲きの花が、手毬状につく。めしべは1~2本で、葉化することもある。萼筒は鐘



図 12. '江戸'

形で、萼片には鋸歯がない。

・'関山'(Cerasus serrulata 'Kanzan': カンザン)(図 13)

栽培品種。花の咲く時期は「染井吉野」より遅い。新葉は茶褐色で、花よりやや遅れて出る。大輪で、八重咲き。花色は紅色。1~2本のめしべは、葉化することがある。萼筒はろうと形で、萼片には鋸歯がない。花色が濃く花びらの枚数が多いので、塩漬けのサクラの材料として利用される(東京農業大学短期大学部生活科学研究所編 2000)。江戸後期より記録があり、関東地方でよく目にする八重桜である(勝木 2001)。また花色が濃いことから、海外でも好んで植えられている(林業科学技術振興所編



図 13. '関山'

2004)。

- ・‘菊桜’ (*Cerasus serrulata* 'Chrysan themoides': キクザクラ)(図 14)

栽培品種。花の咲く時期は‘染井吉野’より遅い。新葉は緑褐色で、花と同時に展開する。花弁の数が100～200枚ある菊咲きの大輪の品種。花色は淡紅色～紅色で、中心部の色は濃い。小花柄が長く、花



図 14. ‘菊桜’

は下垂する。副萼片がある。

- ・‘越の彼岸桜’ (*Cerasus spachiana* Lavallee ex E. Otto var. *koshiensis* (Koidz.) H. Ohba : コシノヒガンザクラ)(図 15)

栽培品種。‘染井吉野’と同時期またはやや早い時期に開花する。中輪で、花色は白色～淡紅色、一重咲き。萼筒は細長い筒形。小花柄や萼筒は有毛で、めしべの花柱の基部にも毛がある。北陸地方には‘越の彼岸桜’の自生地があり、エドヒガンの変種として分類されることもある(大場ら 2007)。日本産種のほとんどが16本の染色体をもつ2倍体であるのに対し、‘越の彼岸桜’は24本の染色体をもつ3倍体であることがわかっている(大場ら 2007)。このことは、‘越の彼岸桜’が雑種起源である可能性を示唆しており、エドヒガンとオオヤマザクラ、ある



図 15. ‘越の彼岸桜’

いはカスミザクラやキンキマメザクラとの種間雑種であると推定されている(川崎ら 1993 勝木 2001, 大場ら 2007)。

- ・‘十月桜’ (*Cerasus* × *subhirtella* 'Autumnalis': ジュウガツザクラ)(図 16)

マメザクラとエドヒガンの種間雑種または秋から春にかけて咲く‘小彼岸’の八重咲きのもの(勝木 2001) あるいは種間雑種であると推定されている‘小彼岸’を片親とする雑種である(大場ら 2007) と考えられている栽培品種。10月頃に開花し、冬の間も断続的に花が咲き、春にも花を咲かせる二季咲き。新葉の展開は、開花後。中輪で、花色は淡紅色～白色、八重咲きで、花弁の形は長楕円形。春の花は秋の花よりやや大きく、小花柄が長い。めしべはおしべより長く、突き出る。萼筒はつぼ形で、小花



図 16. ‘十月桜’

柄とともに毛がある。

- ・‘松月’ (*Cerasus serrulata* cv. 'Superba': ショウゲツ)(図 17)

栽培品種。花の咲く時期は‘染井吉野’より遅い。新葉は黄緑色で、花よりやや遅れて展開する。大輪で、八重咲き。花色は淡紅色で花の中心部に近いほど白く、花弁の先端には細かな切れ込みがある。1～2本の葉化しためしべを持つ。萼筒はろうと形で、



図 17. ‘松月’

萼片は幅広く鋸歯がある。

・‘染井吉野’ (*Cerasus × yedoensis* 'Someiyoshino': ソメイヨシノ) (図18)

「桜」といえば‘染井吉野’をさすほど国内ではもっとも馴染みのある栽培品種。花色は淡紅色で、一重咲き。小花柄や萼筒には毛がある。新葉に先立ち一重の手毬状の花がいっせいに咲きそろって上、生育も早いことから、明治以降全国に急速に普及した(川崎ら 1993)。現在日本に植栽してあるサクラの約7～8割を占めると言われている(平塚 2005)。本品種は、他品種同様接ぎ木によって増やすためすべての木が遺伝的に均一(クローン)であることから、沖縄・奄美地方を除き、開花予想基準花として桜前線の指標にされている(今給黎 2005)。江戸時代後期に江戸染井村の植木屋が「吉野桜」と名付けて売り出したのが本品種で、‘染井吉野’の和名が付いたのは明治時代後半の1900年、学名が命名されたのはその翌年になってからである(金子 1992, 大場ら 2007)。「染井吉野」の起源については、済州島に自生しているという説もあったが、形態的な見地からはエドヒガンとオオシマザクラの雑種で、交配による実験遺伝学的な検証からもそれが支持されていた(金子 1992, 川崎ら 1993, 平塚 2005, 大場ら 2007)。両種の分布が重複する伊豆半島で自然交配したか、あるいは人為的な交雑育種が行われたのかは記録が残っておらず、今となっては確かめようがないが、‘染井吉野’の葉緑体のDNAのRFLPパターンを分析した結果では、エドヒガンが母親でオオシマザクラが父親であると考えられた(金子 1992)。また、核ゲノム中のPoIA1遺伝子を解析した最近の研究からは、エドヒガン系の栽培品種を母親、オオシマザクラを父親として起源したことが示唆されている(中村ら 2007)。「染井吉野」は、カビの一種(タフリナ・ウイエゼリ菌)によって起こされる伝染性のてんぐす病に罹りやすい。この病気に



図18. ‘染井吉野’

罹ると、多数の小枝が異常に発生して花が咲かなくなり、やがて病巣全体が枯死する(林業科学技術振興所編 2004)。さらに、樹齢が60年を越えるころから衰え始めるといわれている(平塚 2005)。植栽された本数がかなりの数にのぼる上、戦後すぐに植えられたものが多いので、現在各地で樹勢の衰えが問題になっている(平塚 2005)。その状況の中で注目されているのは青森県弘前市の弘前公園の‘染井吉野’で、独特の管理方法により樹齢120年を数える(平塚 2005)。

・‘普賢象’ (*Cerasus serrulata* 'Albo-rosa': フゲンゾウ) (図19)

室町時代にはすでに記録のある最も古い栽培品種のひとつで、普賢菩薩が乗る白象に見立ててこの名がついたとされる(山田 1990, 川崎ら 1993, 小川 2004)。花の咲く時期は‘染井吉野’より遅く、新葉は茶褐色で花と同時に展開する。大輪、八重咲き。花色は淡紅色で、2本の葉化しためしべをもつ。萼筒はろうと形で、萼片には鋸歯がある。



図19. ‘普賢象’

・‘御車返し’ (*Cerasus serrulata* 'Mikurumakaisi': ミクルマガエシ) (図20)

栽培品種。花の咲く時期は‘染井吉野’とほぼ同時期。新葉は緑褐色で、花よりやや遅れて展開する。花色は‘染井吉野’よりやや濃いめの淡紅色で、1本の木に一重と半八重の花を咲かせる。牛車の中の二人が一重か八重かを争って車を引き返したといういわれから、その名がついたとされる。別名‘八重一重’あるいは鎌倉桐ヶ谷にあったことから‘桐ヶ谷’とも呼ばれ、室町時代にはすでに「鎌倉桜」として知られていた(山田 1990)。御水尾天皇がその花の美しさに御車を返したのでその名がついたという説もあるが、それは別品種であるとも言われている(川崎ら 1993, 勝木 2001)。



図 20. '御車返し'



図 22. '鷺の尾'

・'八重紅彼岸' (Cerasus × subhirtella 'Yaebenihigan': ヤエベニヒガン) (図21)

マメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられる栽培品種。'小彼岸'の八重咲きのもので、'十月桜'と似た形態であるが、秋には咲かない。花の咲く時期は'染井吉野'とほぼ同時期。新葉は緑色で、開花後に展開する。中輪、花色は淡紅色、八重咲きで、花弁の形は長楕円形。めしべはおしべより長く、突き出る。萼筒はつぼ形で、小花柄とともに毛がある。



図 21. '八重紅彼岸'

・'鷺の尾' (Cerasus serrulata 'Wasinowo': ワシノオ) (図22)

栽培品種。花の咲く時期は'染井吉野'より遅く、新葉は茶褐色で花とほぼ同時に展開する。大輪、一重または半八重咲きで、おしべの葯の部分の花弁に変化した旗弁をもつ場合もある。花色は白色。萼筒は鐘形で、萼片には少数の鋸歯がある。

(3) 手賀沼親水広場 - 滝下広場間の調査ルートにおけるサクラの花期および果実期

手賀沼親水広場 - 滝下広場間の調査ルートで確認された3種13品種の2004～2008年の開花期と果実期について、表1に示す。1年を1～12月、各月を上・中・下旬に区切り、花が観察された場合を○、赤色～黒紫色の果実が観察された場合を●、花も赤色～黒紫色の果実も観察できなかった場合を-で示し、観察していない場合は空欄とした。また、年により花が観察された年とそうでない年があった場合は○で示した。種および品種は、開花が確認された時期が早い順に並べた。

謝辞

本報告に写真を提供してくれた斉藤安行氏、調査に同行し協力してくれた斉藤量子氏、資料を提供していただいた国立遺伝学研究所の山崎由紀子博士と文献を紹介してくれた亀谷辰朗氏に感謝いたします。

要約

2004年4月から2008年12月までの59日間、千葉県我孫子市高野山新田の手賀沼親水公園から滝下広場までの手賀沼遊歩道沿いに植栽してあるサクラの品種について調べた。調査ルート内に植栽してあるサクラは238本で、エドヒガン、オオシマザクラ、ヤマザクラ、'糸桜'、'一葉'、'江戸'、'関山'、'菊桜'、'越の彼岸桜'、'十月桜'、'松月'、'染井吉野'、'普賢象'、'御車返し'、'八重紅彼岸'、'鷺の尾'の3種13品種が確認できた。

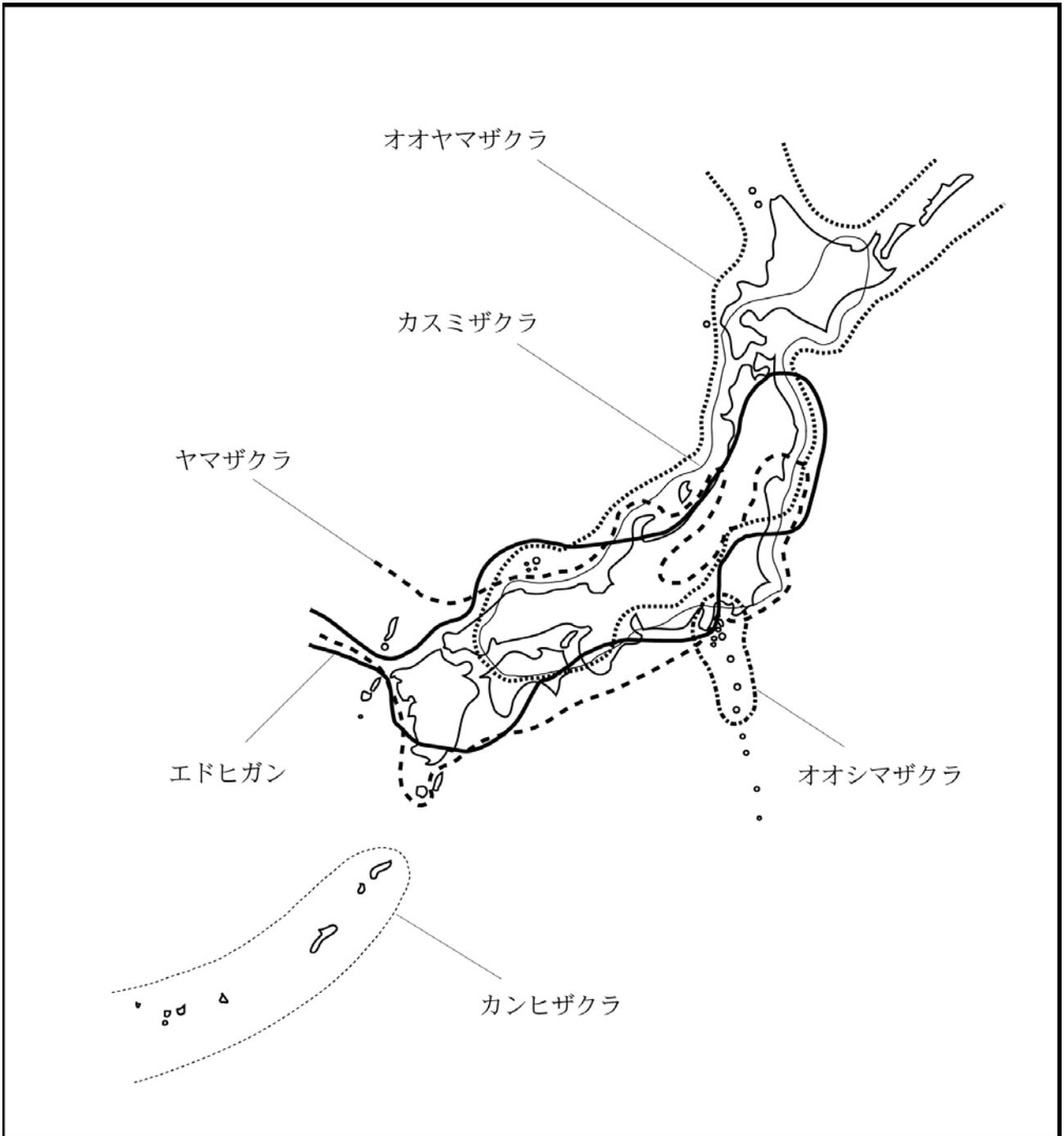
表 1. 調査ルートに植栽してあるサクラの花期および果実期

種・品種名*	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
'十月桜'	●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●		●	
エドヒガン	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'糸桜'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'越の彼岸桜'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'染井吉野'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
ヤマザクラ	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'鶯の尾'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
オオシマザクラ	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'一葉'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'江戸'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'御車返し'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'八重紅彼岸'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'関山'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'松月'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'菊桜'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	
'普賢象'	-		-		-		-		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎		◎	

* : 種・品種名は、上から順に花期の早いものから並べた
 ● : 花が確認できた場合
 ◎ : 暗赤色～黒紫色の果実が確認できた場合
 ○ : 調査した年により、花が確認できた年と花が確認できなかった年がある場合
 - : 花も暗赤色～黒紫色の果実も確認できなかった場合
 空欄は未観察を表す

引用文献

- 林弥栄(1975): グリーンブックス61 サクラ100選. ニュー・サイエンス社, 東京.
- 平塚晶人(2005): 日本のサクラが死んでゆく. 新風社, 東京.
- 今給黎靖夫(2005): 大人が楽しむ地図帳シリーズ「いきもの」前線マップ - 桜はいつ咲く? カエルはいつ鳴く? -. 技術評論社, 東京.
- 金子隆史(1992): ソメイヨシノの起源. 植物の自然誌プラント, (20): 21-24.
- 勝木俊雄(2001): フィールドベスト図鑑10 日本の桜. 学習研究社, 東京.
- 川崎哲也・奥田實・木原浩(1993): 山溪セレクション 日本の桜. 山と溪谷社, 東京.
- 森脇和郎編(2006): 遺伝研のさくら(第4版). 遺伝学普及会, 静岡.
- 中村郁郎・高橋弘子・太田智・森泉俊幸・佐藤洋一郎・花城良廣・三位正洋(2007): PolA1 遺伝子解析によるサクラの類縁関係 - ソメイヨシノの起源 -. 第111回 日本育種学会大会講演要旨集.
- 中尾佐助(1986): 花と木の文化史. 岩波書店, 東京.
- 小川和佑(2004): さくらの文化史. 文藝春秋, 東京.
- 大場秀章・川崎哲也・田中秀明・木原浩(2007): 新日本の桜. 山と溪谷社, 東京.
- 東京農業大学短期大学部生活科学研究所編(2000): 桜 さくら サクラ100の素顔. 東京農業大学出版会, 東京.
- 山田孝雄(1990): 櫻史(復刻版). 講談社, 東京.
- (財)林業科学技術振興所編(2004): 桜をたのしむ(改訂版).(財)林業科学技術振興所編, 東京.



資料1 おもな自生種の分布

(川崎 1998 を改変)

Flowering cherries in the esplanade of Teganuma

Tomoko Imamura

KEY WORDS : flowering cherries , the esplanade of Teganuma , Abiko , Chiba

1634-2-609 , Togashira , Toride City , Ibaraki Pref. , 302-0034 Japan .

【訂正情報】

今村知子：手賀沼遊歩道沿いに植栽されたサクラの品種の訂正と補足

手賀沼親水広場-水生植物園間のルートで確認された桜の品種に間違いがありましたので、お詫びとともに、訂正・補足いたします。

誤：‘菊桜’

正：‘梅護寺数珠掛桜’

・‘梅護寺数珠掛桜’ (*Cerasus serrulata* ‘Juzukakezakura’：バイゴジジュズカケザクラ) → ‘菊桜’としていたが、2011年4月の調査で同定が間違っていたことがわかった。

ときに二段咲きもする菊咲きで大輪の栽培品種。花の咲く時期は‘染井吉野’より遅い。新葉は緑褐色で、花と同時に展開する。花色は淡紅色で、中心部の色は濃く、花卉の間から多数のおしべがのぞく。小花柄が長く、花は下垂する。‘菊桜’にくらべ、萼片や副萼片の幅が狭くて細長い。

(2013年4月17日受理)